

平成29年度在宅療養における栄養ケア事業

1 目的

在宅療養者や介護者のニーズに応じた食支援を効果的・効率的かつ継続して行えるよう、市町村や公益社団法人大阪府栄養士会、地域の関係機関・団体等と連携して栄養ケアを担う人材を養成するとともに、地域の実情に応じた栄養ケア体制の構築を図り、在宅療養者のQOL（生活の質）及びADL（日常生活動作）の向上を目指す。

2 これまでの取組み

平成26年度より在宅療養者の支援に関わる職種を対象に池田保健所と共催で研修会を実施

3 取組みから見えた課題

- (1) 栄養士が入った多職種での情報共有の場が少ない。また、退院調整に栄養士が入っていない。
- (2) 訪問栄養指導を行う医療機関等の地域資源の把握が十分でないため、活用されていない。
- (3) 在宅療養者の支援に関わる者の「やせ」に対する危機感が乏しい。
- (4) 保健所主催の研究会では、在宅療養において多職種でつながる際に要となる介護支援専門員や訪問看護師の参加が少ない。

4 平成29年度の事業内容

(1) 介護支援専門員向けの研修会を開催（ケアマネ塾特別講座）

目的：在宅療養において多職種でつながる際に要となる介護支援専門員等に対して、栄養ケアの必要性への理解を促し、さらに在宅療養者が抱える食や栄養問題に気づき、適切な支援の実施を推進する

日時：平成29年11月28日（火）15：30～17：00

場所：吹田保健所 2階 講堂

主催：吹田市高齢福祉室、吹田保健所

内容：講演「在宅高齢者のごはん～訪問栄養指導の現場から見えること～」

講師：在宅栄養管理ステーションもぐもぐ大阪 管理栄養士 水島美保氏

参加者：21機関27名（介護支援専門員、地域包括支援センター職員、病院栄養士等）

(2) 病院及び高齢者施設の栄養士向けの研修会を開催

目的：栄養士や退院支援・調整に携わる職種の方を対象に地域の訪問栄養指導の状況について理解を図り在宅療養における栄養ケアの視点を持ち専門性を活かした退院支援・調整の実施を推進する。

日時：平成30年1月26日（金）14：30～16：30

場所：吹田保健所 2階 講堂

主催：吹田保健所（協力：吹田保健所管内集団給食研究会）

内容：講演「『在宅時々入院』を支える管理栄養士をめざして」

講師：大阪府済生会吹田病院 栄養科 係長・管理栄養士 部谷仁美氏・小塚拓也氏

グループワーク「在宅療養を支えるために～よりよい退院調整・支援をめざして～」

参加者：13機関14名（病院・特養・老健栄養士、医療ソーシャルワーカー等）

(3) 訪問栄養指導に関するアンケートの実施

目的：在宅療養における栄養ケアの充実化を図るため、訪問栄養指導を行う医療機関等管内の地域資源及び地域のニーズを把握する。また、関係機関へ情報提供を行う。

時期：平成29年12月

対象：吹田市医師会員（282か所へFAXにて送付）

(4) 在宅訪問栄養指導の周知

目的：当事業及び訪問栄養指導への理解を図る。

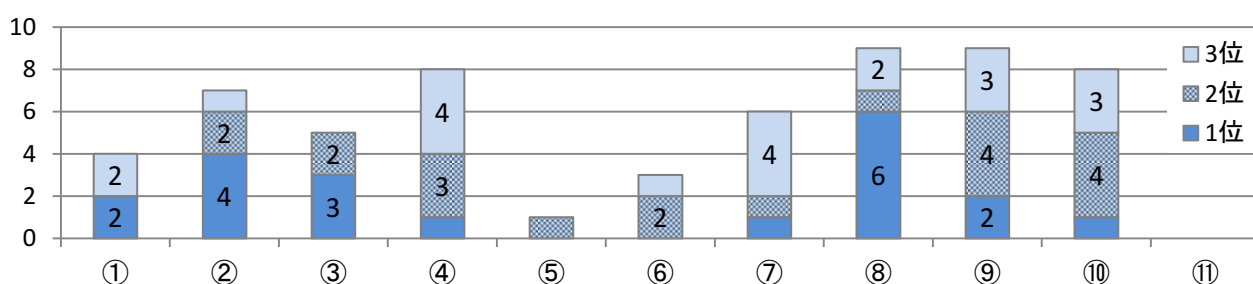
方法：保健所での取組みや訪問栄養指導について会議等の機会を活用し説明を行う。

5 各種アンケート結果抜粋

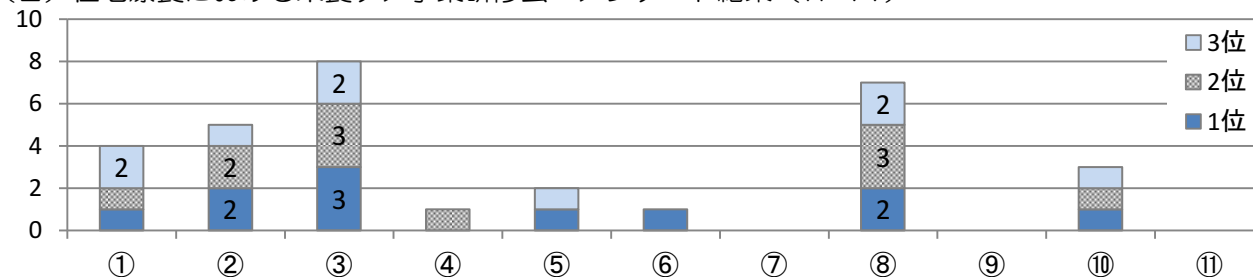
【共通質問】在宅療養者への栄養ケア推進のために地域で必要と思うもの、優先順位が高いもの（上位3つ）を教えてください。

- 【回答選択肢】
- ① 関係職種向け研修会
 - ② 栄養や食事の相談窓口
 - ③ 在宅栄養ケアを進めるためマニュアル・連携チャート等の作成
 - ④ 在宅栄養ケアに関する地域資源などの情報
 - ⑤ 栄養ケアのメリットを紹介した資料
 - ⑥ ホームヘルパー（訪問介護員）への調理指導
 - ⑦ 退院時における本人や家族への食事指導（在宅で可能な具体的な食事事例の紹介等）
 - ⑧ かかりつけ医からの訪問栄養食事指導の指示
 - ⑨ 在宅療養者自身や家族の理解
 - ⑩ 在宅療養者の支援に携わる関係職種の共通理解
 - ⑪ その他

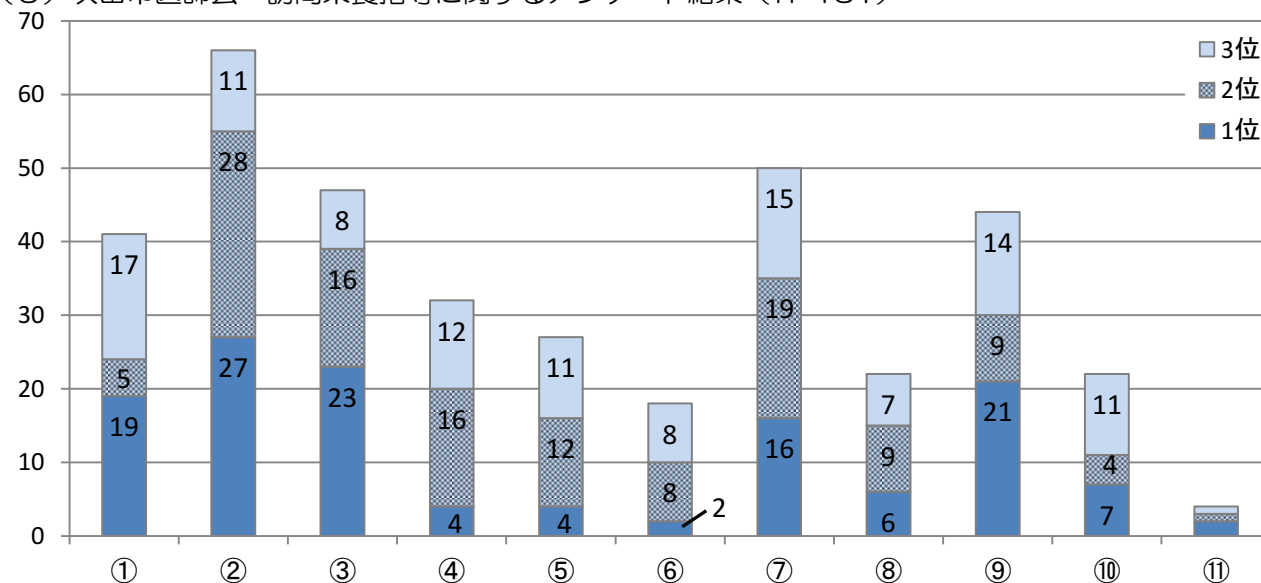
(1) ケアマネ塾特別講座 アンケート結果 (n=20)



(2) 在宅療養における栄養ケア事業研修会 アンケート結果 (n=11)



(3) 吹田市医師会 訪問栄養指導に関するアンケート結果 (n=131)



⑪その他(施設数)

1位(2)・在宅支援施設への管理栄養士の配置 ・訪問栄養指導の効果が理解できる機会

2位(1)・栄養アセスメント

3位(1)・在宅訪問栄養士制度の促進体制